「聞き書き指導」の教育力とその指導法・「国語表現法」の実践を踏まえて

<table>
<thead>
<tr>
<th>著者</th>
<th>田中 宏幸</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>雑誌名</td>
<td>清心語文</td>
</tr>
<tr>
<td>号</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>ページ</td>
<td>63-76</td>
</tr>
<tr>
<td>発行年</td>
<td>1999-12</td>
</tr>
<tr>
<td>URL</td>
<td><a href="http://id.nii.ac.jp/1560/00000372/">http://id.nii.ac.jp/1560/00000372/</a></td>
</tr>
</tbody>
</table>
「聞き書き指導」の実践を踏まえて

田中宏幸

「聞き書き指導」の教育力とその指導法

「国語表現法」の実践を踏まえて

近来、音声言語学習の重要性が再認識されるようになり、その指導法の開発が強く求められるようになってきた。新学習指導要領（平成11年改訂、平成14年度实施）においても、領域構成が「三領域」こと、「表現」「理解」「言語事項」から「三領域」こと、「話すこと、聞きこと、書きこと、読むこと」こと、「言語事項」に改められ、音声言語が最重要課題として位置づけられている。伝え合う力を高めるここと、説明・発表、対話・討論などの言語活動を展開しようというのである。

新たに、これら音声言語活動を充実させる方策が十分に明らかになっていないことは言いがたい。音声言語の特徴を生かした的確な「伝え方」はいかなるものか。さらに「伝え合い、心を通わせよう」レベルに到達するには、どのような学習活動を展開すればよいのか。これまでの研究成績を学びながら、指導方法の具象化を急げばならない。

本稿においては、右のような問題意識を持つ大学教育史対象としての実践に加え、情報の伝達を難しくない点も多い。抽象的な議論を避け、実際的な問題として考察を加えた。

一 学習指導の概要—九九八年度の場合—

私が「国語表現法」を参考に、通年四単位（通年四単位）の講義においてっていて考察する。「聞き書き」は、「インタビュー活動」を通じて音声言語による「通じ合い」を経験させ、さらに「聞き書き集の作成」を通じて文章表現力の向上を図ろうとする「総合的な学習」である。しかし、通じ合いのない活動や、大いに活用されることになるなど、総合的な学習であるが、故に、留意しなければならない点も多い。抽象的な議論を避け、実際的な問題として考察を加えた。

一九九八年度は、前期に「文章表現法」、後期に「音声表現法」を配置していた。後期の学習は、次の四単位で構成されている。
すみません、画像の内容を正確に読み取りませんでした。画像が横に配置されており、画面の一部がカットされているためです。もう一度画像を送っていただけますか？
この配列には、ディベートのもたらす弊害を最小限に止めておきたというねらいも込められている。ディベートは、取材力の育成、論理力の育成、発想力の拡充など、多くの長所を持つ指導法であるが、その反面、二極の反応に陥ってしまい、対立的な意見関係を生む恐れがあるなど、いくつかの短所も併せ持っている。こうした問題点を克服するには、「自由討論」の時間を設けて止揚発想を導いた必要がある。インタビューは後者の方法として生かせるものである。

三
「聞き書き指導」の実際

では、実際には「聞き書き指導」をどのように展開し、いかなる点に留意したか、指導手順を沿って、そのポイントを列挙する。

1. インタビュー実施前、事前準備に一つ目の時間をあてた。留意点

① トーテムの設定
② 開きあう学習
③ 相手の言語から次回の話題を引き出すトレーニング
④ インタビュー内容に関する予備知識の獲得

⑤ 質問項目と構成プランの準備

⑥ ことばの学習は、極端的には各自の表現能力の向上につながるため、だれでもなりがたいものである。しかし、少し優れたテーマであっても、学習者の側に学ぶべき必要性がなければ、積極的な学習意欲を引き出すことはできない。押しつけられた課題では、かなり活動的に取り組み得るのを探す、そこで、今年度は、テーマに選択制を取り入れ、『事前』と『二十歳のころ』のニチームを並立てることにした。この改良は、過去一回の実践に対する反省を踏まえたものである。
げ関心を集めて、「人生の岐路における人の生き方を探る」という本来の目標を見失ってしまうこともあった。
こうした問題を解決するためにも、一つのテーマを並置する必要が先達にインタビューさせ得るから、テーマを主体的に選択し、しかも目標を見失わないでいます。こうしたことをねらった工夫である。

②「聞き書きモデル」の提示
学習目標と方法を確かなものとするために、指標となるモデルを提案しておくことが大切である。そのモデルが適切であれば、学習の見通しを持たせることができる。学習意欲を高めることができる。「聞き書き」の条件は、次の三つである。（1）インタビューの内容。（2）親近感を持たせる書き方。（3）表現方法の典型性。

今回、この三条件を満たすものとして、次の三種を用意した。

・“調査方針”の例となる。

・“九九年度受講生の作品”（西和彦に聞く）及び“東京大学教養学部文学部の学生作品”（河童さん）

・東京大学教養学部文学部の学生作品“西和彦に聞く”及び“東京大学教養学部文学部の学生作品”（河童さん）

これは、インタビューの意外性に驚かされる作品である。日を当たる場所に生きる人にとって、様々な話をする人としての誇りがあるということを実感させ、「プロ意識」というものについて深く考えさせられる内容を作っている。表現形式としては、「独り言語」方式のモデルとして活用することができる。

③相手の話から次の話題を引き出すトレーニング
聞き書きモデルは、以下の文章表現のスタイルを理解させる方で、例に先立つインタビュー活動をイメージ化させることになる。それらの質問を散発的に投げかけることができるのかでできない学習者が少なくない。一問一答式のやりとりでは、インタビューとして落第である。
「聞き書き」としてまとめて深まるものとなる。信頼される聞き手となる。相手の話を理解し共感しながら質問を重ねることが大切だ。と自覚させる必要がある。

教材としては、逐語記録「相手の話のなかから質問を考える－相沢先輩に聞く－NHK教育大国「先生のために話すこと：セミナー－で配付された資料－九九年に行われたセミナーの記録－を用いた。

ここに示されたインタビュー例を読み、あいまいな、焦点を絞り具体的に深く訊いていくことが重要だ。相手のための話である。さらに「模擬インタビュー」の実際の練習を取り入れる。被験者に、あるいはゲストを迎えてインタビューの練習をしてみるのです。

インタビューは、聞き手である苦手な学習者たちにとっては、戸惑いを覚える学習である。その心理には十分の配慮をしなければならない。しかし、実際にはそう簡単に決まることもない。学習目的や方法を明確に、同世代の作品を読むことが重要だ。

インタビューの選定とポインタメントの取り方

インタビューは、人気に合い、苦手な学習者たちにとって戸惑いを覚える学習である。しかし、実際にはそう簡単に決まることもない。学習目的や方法を明確に、同世代の作品を読むことが重要だ。

インタビュー内容に関する予備知識の獲得

インタビューは、聞き手である苦手な学習者たちにとっては、戸惑いを覚える学習である。しかし、実際にはそう簡単に決まることもない。学習目的や方法を明確に、同世代の作品を読むことが重要だ。

インタビュー内容に関する予備知識の獲得

インタビューは、聞き手である苦手な学習者たちにとっては、戸惑いを覚える学習である。しかし、実際にはそう簡単に決まることもない。学習目的や方法を明確に、同世代の作品を読むことが重要だ。
ロフィール、関連する話題など、できるだけ多くの情報を得ておかなければ、一人前として扱ってもらえないし、深まりのある話を聞き出せば、不自然に思われるだろう。

６．質問項目と構成プランの準備

質問項目はできるだけたくさん用意させる。また、おおよそどういう組み立てて尋ねていくかを考えさせる。

聞かれる側になってみれば分かることだが、いかに「人生観を聞かせたくださー」と問われても答えられるものではない。そのためにも、「ドアオープンナー」となる議題、例えば、

○それは、「例えはこういうことですか。」（具体系化）
○それは、「とあいついう意味ですか。（自分の受けとめた内容を相手に示し、さらに対話を深めていく能動的な聞き方）
○なぜ、そうなんですか。（原因に迫る、真意を聞き出す）
○それはどうやって、実のところですか。（方法を詳しく聞く）
○その仕事は（本当に）よかった、と思われたのは、どんなときで、（生生活態を聞き出す）

７．インタビュー実施後、「聞き書き」による文章化

インタビュー場面では、用意した質問にとらわれてはならない。会話が弾んでこそ、いい話が聞き出せるのだ。

２．インタビュー実施後、「聞き書き」による文章化

「聞き書き」を実施するにあたって、留意したのは次の三点である。

１．表現方法の多様化
２．表現技術上の課題と参考資料の提示
３．「聞き書き」集の作成
口やしをした、ノンバーナル表現を文字化することができず、細
部にわたって苦心傷診することになる。

この困難点は比較的容易に乗り越えられるが、「聞き語り方式」
である。即ち、「聞き手」の質問はすべて問われている。この方式では、「聞き
き手」が「聞き手」になりかわって繰り返す形採用のために、「聞き手」が
聞き語りをしているようにまとめるのがある。この方式では、「聞き
き手」の表情や語りの頭見しつつ、「聞き手」が
を対象とした先行実践例（注9）においても優れた成果を上げており、
初めて取り組む場合には、最も適した方法であると言えよう。

しかし、多くの作品を一冊の「聞き書き集」として編集してみると、
どれも同じもののように見えてしまうこともある。そこで、
九九八年度は、次の三つのモデル（注9）から選んですることにした。

Aタイプ・インタビューの姿を完全に消し、簡単な経歴のあとは
すべて相手の語りをとっているタイプ。（聞き書き方式）
Bタイプ・インタビューである記者の相手が一問一答式に話を進
めていく。それを忠実に再現しつつ、「聞き書き方式」（対話方式）
Cタイプ・人選経過、当時の雰囲気、雑言、相手の第一印象等を検
しく聞き書きした内容を展開していくタイプ。（ルポルタージュ方式）

いずれのタイプが、表現方法そのものに優劣はない。インタビュー
による、また話の内容によって、さらに自分の文章表現力によっ
て、最も適当だと思う方法を選ばないのがである。ただ、指導者
としては、それぞれの方法がどのような特徴を持っているかを把握し
ておく必要がある。

例えばBは、インタビューの姿そのままでの、部分的削除しながら
と、どのように聞き出されたかをリアルに再現しつつ、正しい方法である。

一方Cは、「聞き手」自身を主語として、聞いた内容・知り得た事
を紹介していくという形をとる。「聞き手」が主語となり、文末は「
そうだ」「そうだ」という、伝達や不確かさを否定が結ぶ。ルポルタージ
の基本形であり、書きやすい方法である。「聞き手」が主観前面に出てきて、「語り
手」の声が伝わりにくくなるというのである。

また、Cの変換とインタビューの名前をそのまま主語に
据えて出来事は絡めていくという方法がある。「私が聞いたところを
観察して述べていくのである。ノンバーナル、小説の世界が生
まれる。」

したがって「聞き手」は、「大抵は、そのときのした」と客
観化して述べていくのである。ノンバーナル、小説の世界が生
まれる。
話し言葉を記録する（注1）津野健太郎話しコンバの冒険（注12）

さて、「聞き書き」をまとめる際には、「必ず小見出し」とつけるように要求した。「聞き書きは逐語記録とは異なるものである。取材してきた内容を再構成しなければ、語り手の本質を伝えることは出来ない。この「小見出し」をつけにより、段落意識と文章構成が育てられるのである。」

「聞き書き」は、一冊の文集として結実させたい。学習内容を一そう価値あるものにするために、書き上げた「聞き書き集」の作成。学習内容をいかに体系化し、体系を結実させる必要がある。そこで、原稿のチェックを行い、体裁を整え、活字に変えることにより、この編集作業を進める。指示者の方で、形式を統一することにし、原字した作品をフリーディスコで編集させることになる。この編集作業を進めながら、理解のチェックを行い、内容を整えることにより、書き取りが可能となる。達成感もとしやすいのである。こうすれば、情報機器に早く慣れることが出来る。「聞き書き」の書き方（注15）藤村勝己

座談会・インタビューなどの聞き書きの書き方（注15）
「聞き書き指導」の教育力を

以下の実践を踏まえて、「聞き書き指導」の教育力について整理しておこう。先行研究としては、浜本純一（注13）、下沢勝井（注14）らの論考がある。

自分の生活体験とそれをとおして身につけてきた自分のことばに固執してはいけない。そのときの自分の立場や視点を持っているか、という社会的背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、という社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、という社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、という社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、という社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、という社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、という社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、という社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、という社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、という社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、という社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、という社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、という社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、という社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、いう社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、という社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、という社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、いう社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、いう社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、いう社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、いう社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、いう社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、いう社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、いう社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、いう社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、いう社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、いう社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、いう社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、いう社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、いう社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、いう社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、いう社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、いう社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、いう社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、いう社会的な背景のことを考え抜かなければならない。ところから、「己を空しめる」ときがあることから、いう社会的な背景のことを考えておこう。
記録するにふさわしい内容を、それも語られた事柄が
生かされる形で忠実に再現してみようとする行為は、体験したもの
でなければ感得できないほど大変な行為で、またむずかしい操作で
書き残していければ、学習でもあるのだから、楽しくやさしい学習
と書き残したいば、これは渡りに船で、話されたことをそのまま
読み、書きすることを聞くことは、書き残されたものを
読む、書き残すという言語活動のすべてが介在する学習は、それぞ
れの言語機能を根底的に考えていきざを得ない場に立たされる点で
重要である。

両氏が指摘するように、「聞き書き」という学習は、一面ではだれ
にでも取り組むことのできる手軽な学習であると言える。だが同時に、
学習の進行に伴って自分自身が問われる厳しいことを背負った学習
であるとも言える。つまり、入口はやさしくても、奥深くが深
く、学習者の年齢や人生経験にやって、常に新しい発見をもたらす学
習活動である。

この「聞き書き指導」の教務力は、インタビュー段階」と「文章
化段階」の二つに分けて考えると、次のようになる。
「インタビュー段階」では、表現主体は自分よりもむしろ相手の方
を、いかに効果的に再現するかということに関心することになる。
文章表現の最も基本的な部分にあたる「取材」から「選材・構想」へ
の表現過程の力に注ぐことが求められるのである。このとき、文字数
限や小見出しをつけ有効に働き、文章構成にいっそう気を配るように
なった。さらに、日本語の特質について関心を持ち、話しことばと書き
ことばの性質について理解するようになる。

次に、「文章化段階」では、インタビューによって取材してきたこ
とを、いかに効果的に再現するかということに関心することになる。

① 世代・性別を超えたコミュニケーションの場が生まれる。
② 学習者の言語表現が豊かに側面をいく
③ 学習者の人生観や社会観が深化する。
④ 言語の使い方を実践的な言語運用能力が向上する。
⑤ 真剣に聞く態度が育つ。
昭和十八年に数えの二十歳で徴兵検査を受け、その次の年の一月に重砲兵の現役兵として、満州へ行った。重焼兵という名は大砲の一番大きいやつを扱う。ソ連の手当や、注射や、それから健康診断もした。おおそっや、それから自動車手としての訓練も受けたけど、よう病人を病院まで送ってもらった人にはありがたかったね。ま、早く CMP

（昭和）三十年の七月に、陣地構築しつつ焼酒をいのう湖におっ

たったな。ま、早く CMP

うって、って手榴弾の爆発で酔って地下ののを取る。だが、や

マヤール。ナマズは八十センチ位をたけえ。油抜きして、照り焼

きにしてのう。じゃけど、そういった魚を狙ったんは、頭と耳だけ

だけねえで。熊がおるんじゃ、熊を泳ぐの早いで。ちょっとして

でパンデみんなかえるんだ。他に、咲くなったら狼がいっぱい出

てくるんじゃ。これまたぽっけ（足が）早え。かまれた人はぎょ

うさんね。わしが襲われそうになかったことがあるで。でも、むや

実戦に加わったこと？ そりゃちょっとあるで。二十年の八月九日

の午前〇時にソ連が国境を越过して戦争が始まった。こっち

は小銃（ライフル）と機関銃で、「こうは戦車じゃない。わしの他に若い

学徒兵が特攻隊を編成して、戦車の通る道のほりに、人が立て

て入れる位の穴を掘って、それに入れて戦車に向かって爆弾を投げる

で、ドーンと爆発する時に自分はまだ、穴に逃げ帰って来るという作戦

を書いて、もちろんどう書くかって教育はされるとけね。それか

って行った後を見たら、それは сотрудник書くか私に教育はされるとけね。それか

今のテレビドラマで言うたら赤穂浪士四十七士の切腹でええるもか

もしれん。生きて帰れんたかんじやけね。でも、まだ若いも

ばあしゃけえ。戦争いうんでも、どういうんか知らんからんじゃ。死

るうと生きるのすることは全然考えてもええ話でっけ。来たらやっちゃ

て、本を読みながら戦車が来るのを待ちろうもんと思ってんだんじゃ。

十四日やこうは、ソ連に追い詰められて、辺り一面火事になって、
命からがら隊舎に逃げたしたんで。豚や牛の小屋いうんは、屎尿で
燃えんけえ。
次の日は空爆じゃあ。友達ともう散り散りバラバラ。騎兵隊いう
て、馬に荷物を運ばせるんやけど馬を放って逃げれんのじゃけ
え。空から見て目立つのが馬ではな。それで馬と一緒に死んでるのもっ
tたね。ようけな（たさん）。
それから、八月十七日まで戦うとんのを知らんかったんで。ほん
で、二十九日に、ソ連が来るまで武装解除したんじゃ。
二頭を使って生きる・シベリアで
ソ連兵が来て、わしらを「内地」へ連れて帰っちゃる」いう
て、トラックに乗せしてもらったんじゃ。ぼっけえ草の中をトラックで
プリーブープー連れて行かれてなあ。ちっほんを掃じんじゃ
ろうっかって心配で、そう言うたれの音から水が見えて、「海か
あ」って歌いながら帰ってな。湖じゃっかんじゃ。実はウラジ
オストフの方で來て、それから九月一日の夜じゃないから、トラッ
クから降ろされて、「日本の船が来るのかども」って言われた。と
ところが朝起きなたけ、そこはぐるりを重の倉庫に閉まれた収容所
じゃったんじゃけど、「帰りなさい」と言われたんだ。この時に捕虜の生活の始まりじゃった
が、その時ようもうかかったんで。この時が捕虜の生活の始まりじゃった
わけなんじゃ。場所は：これが今でも考えちまったかわからん。（中略）
それからまた半年位したたら、今度はシベリア鉄道に乗られて、ど
うわけ。（中略）
日用品もいろいろなあ。考えで作ったんじゃ。アンズの大で著作っ
て、茶箱もパン切り包も。それからソーセージもナイフも。そうい
て、おかけて夜、真っ暗じゃ。豚の油。これがすますも出んし、明か
りしし、で、ある種の他の食用油や、灯油よりランプにむいたい
うわけ。（中略）
パンの目方を量る「パン量り」を申し上げた時はおもしろかかった
にゃ。最初はええよのにいきょうしたんじゃけど、誰かが「何」って中
の部分じゃ重さが違うって言い出して。で、今度はそれらを、別個に
量つけるようにしたんじゃ。その二百グラムが一目分じゃけ、
皆必死で、まあ、今じゃあどこでも考えられんけど、何おねここじゃっ
tたら、よう頭がかくんじゃあ。（以下略）
（たなか
ひろゆき/本学助教授）